

謹賀新年

新年明けましておめでとう
まにおかれましては、市民の皆さま
新たに新春をお迎えのこととお
慶び申し上げます。

昨年は熊本地震に加え、阿蘇山の噴火や東北・北海道での台風被害など、全国で多くの自然災害に見舞われました。熊本地震では本市も大きな被害を受けました。お亡くなりになった方々に心からのご冥福と、被災された皆さまにお見舞いを申し上げます。また、消防団をはじめ、被災直後より献身的なご尽力をいただいた全ての皆さまとともに感謝を申し上げます。

今回の地震で多くのものを失いましたが、得たものもありました。それは地域における備えと共助の重要性です。また全国からの支援を通じて、多くの自治体や企業との新しいネットワークのつながりができたことは、今後の財産となりました。人間は地震をコントロールできませんが、そこからの復興は私たちの考え次第。私は「ピンチはチャンス」と捉えています。例えば、昨秋の米・食味分析鑑定コンクール国際大会では、開催地として菊池米が2年連続

の金賞を獲得しましたが、最大の勝因は農家の方々が「こんなときこそ金賞を目指す」と燃え上がった心意気でありました。きくち秋まつりの際に、復興支援として友好都市から本場のお祭りを持ち込んでいただき、全国の「きくちさん」が集結して近年にないにぎわいとなったのも、震災が契機でした。菊池溪谷は震災で大きく傷つきましたが、国・県から特別のご支援をいただき、長年の課題であった自然遊歩道や溪谷館を整備して、外国人の人気スポットになるような「創造的復興」を目指していきます。このように、見方さえ変えれば「災い転じて福となす」可能性は随所に存在します。常にプラス面を見る前向きな考え方で、まずやってみる精神、そして諦めない心。これはそのまま、地方創生の成功の鍵ともいえるポイントです。

合併後10年以上を経過し地方交付税収入が大きく減少していくため、今後厳しい財政状況が続くのは間違いありませんが、一方で関係者の努力の結果、相次ぐ工場進出やオリンピックのボート競技キャンプ地指定などの明るい話題も続いています。何よりも、本市は第一級の自然

の素材に恵まれています。こうした天の恵みと歴史文化を生かし、官民一体となって知恵と汗を結集して、明るい希望に満ちた「復光」を目指す一年にしたいと思えます。

本年はいよいよ新庁舎と生涯学習センターが完成し、待望の図書館がオープンします。建物だけではなく、それにより市民サービスの質が向上するよう、全力を尽くしてまいります。皆さまにとりまして、本年が健康で安全で、明るい希望に満ちた年となることを心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつとさせていただきます。

平成29年 元旦
菊池市長 江頭 実



明るい希望に満ちた
「復光」を合言葉に

菊池市長 江頭 実

年

頭に当たり、議会を代表して謹んで新年のごあいさつを申し上げます。平素から議会に対し、多くのご支援とご協力をいただき、あらためて深く感謝申し上げます。

昨年は4月の熊本大震災抜きには語れない1年でありました。前震、本震2度の大地震は本市においても、停電、断水、家屋の倒壊、崖崩れなどを引き起こし、一瞬にして甚大な被害をもたらしました。

幸い人的被害は少なかったものの、その後も続く余震に、車や避難所で夜を明かす人たちがあふれ、つらい体験をいたしました。一方で、全国の自治体や自衛隊の人的支援や多方面からの物心両面にわたる支援には、頭の下がる思いがいたしました。また、各区の区長さんや消防団の初動の対応は、多くの住民に安心感をもたらしたと思います。これらご支援をいただいた皆さまに、議会としてあらためてお礼を申し上げます。

発災後、議会も市議会災害対策支援本部を設置し、市の対策本部と連絡を取り、情報の共有を図りました。やがて被害の状況が判明するに伴い、全議員を委員とする熊本地震からの復

旧・復興特別委員会を設置いたしました。市民や各種団体からの要望事項などを整理し、市、県、国に要望を続けました。菊池阿蘇スカイラインの早期復旧や菊池溪谷の復旧、多数にわたる住宅被害や農業被害などに対する支援の要望を、特別委員会

の総意として行いました。3月設置の議会改革検討特別委員会では、市民のために審議のあり方をめぐって議論を進めているところ、全国的に政務活動費の不正受給問題が起きました。本市議会では、政務活動費は原資が税であることを議員自らが強く認識し、使途基準を厳守しており、議会報告会でも、そのことについて自信を持って報告しました。今後は、収支報告書などを詳細に公開できるように、透明性の確保に努めたいと思います。

工事中であった新庁舎（増築部分）や生涯学習センターが、今春から秋にかけて竣工の予定であり、市民に喜ばれる施設であることを願うものです。一方、合併による重複施設の統合をはじめ、公共施設カルテによる施設の再配置などの計画も議論が進みます。造るよりも統合や廃止は気が重いことではあります

が、議会としては正面から向き合わなくてはなりません。幸い慎重を期した予算決算常任委員会も設置され、議員間討議も進み、執行部に対して政策提言ができればと思うところです。「市民のための審議とは？」をものさしとして、ことしも精一杯努めてまいります。

平成29年 元旦
菊池市議会議長 森 清孝

市民のための
審議を目指して

菊池市議会議長 森 清孝

